

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立八王子東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
事務局長（総務部主任：主任教諭）、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務部主任（主任教諭）、教務部主任（主任教諭）、生活指導部主任（主任教諭）、進路指導部主任（主任教諭）、2学年主任（主任教諭） 計8名
- (4) 協議委員の構成
東京都立大学教授、日野市立日野第四中学校長、八王子市立高倉小学校長、八王子教育委員会課長、八王子消防署小宮出張所長、PTA会長、同窓会代表、後援会代表、近隣住民代表 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
第1回 令和4年6月9日（木）内部委員8名、協議委員8名
協議委員委嘱、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の報告、本校の現状、今年度の各分掌の取組と課題等に関する意見・感想伺い
第2回 令和4年11月15日（火）内部委員8名、協議委員7名
令和4年度の教育活動に関する報告、現状報告、本校における防災教育協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 令和5年2月18日（土）内部委員8名、協議委員6名
これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告、協議委員からの次年度学校運営に関する提言・意見等伺い
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他について
第1回 令和4年6月9日（木）内部委員8名、協議委員8名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 令和4年11月15日（火）内部委員8名、協議委員7名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和5年2月18日（土）内部委員8名、協議委員6名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施方法
Forms（Microsoft 社のフォーム作成サービス）
- (3) アンケート調査の実施時期・対象・規模
12月 全校生徒 対象：946人 回収：654人 回収率： 69%
12月 保護者全員 対象：946人 回収：340人 回収率： 36%
12月 地域住民 対象：144人 回収： 13人 回収率： 9%
12月 教職員 対象： 55人 回収： 43人 回収率： 78%
※保護者、地域住民へのアンケート配布当初にログオンできない不具合が発生し回答を断念した世帯があったものと思われ、特に地域住民の回収率低下が目立った。
※生徒・保護者・教員に対しては、回収についての進捗状況を確認し、再度要請した。保護者の回収率は少し回復し、生徒・教員については若干だが昨年度より回収率が上がった。
- (4) 主な評価項目
授業に関する取り組み 生活指導の方針の明示 学校行事の楽しさ・充実度
いじめや体罰・暴言をなくすための取り組み 学校のホームページ・Twitter・募集対策等の広報
地域連携の取り組み 知的好奇心を刺激する取り組み 生徒のマナーに関する取り組み
部活動の満足度 感染症対策への取り組み
- (5) 評価結果の概要
・ 生徒、保護者ともに、本校の学習指導・学力向上等に対する満足度、部活動・学校行事に対する満足度は全般的に高い。
・ 「授業評価」をもとにした授業改善について、図書館の利用についての肯定的な意見が少ない。

- ・ 探究の取り組みについては、生徒の力を伸ばすことに役立っているとの肯定的な意見が生徒・保護者ともに多い。
- ・ GE-NET20 についての評価が全ての対象について前年度より低くなっているが、前年度までは「英語教育推進校」という名称で尋ねており、GE-NET20 の名称が浸透していないと考えられる。
- ・ 長期休業中の講習・探究学習については、生徒評価は高いものの、前年度からは低下している。
- ・ 生徒評価は、全体的に前年度より肯定評価が減少している中で、学校行事についての満足度が唯一向上している。コロナ禍からの脱却が影響していると考えられる。保護者からの肯定意見も多い。
- ・ 保護者評価では、オンライン活用についての肯定評価が減少している。一方で ICT 活用については肯定評価が増加している。
- ・ 学校から配布される学年情報や進路指導情報のプリント、進路講演会などについて、今後の進路を検討するのにおおむね役立っているという回答した生徒・保護者は多い。
- ・ 避難訓練や宿泊防災訓練が防災意識を高めるという意見に対する肯定意見が少ない。
- ・ H P や Twitter などの広報活動については保護者と教員の肯定意見が多い一方で、生徒の肯定意見は比較的少なく、また地域住民には浸透していない。
- ・ 登下校の指導については、生徒は学校が積極的に指導をしており、生徒自身もマナーを守れているとしているが、教員や地域住民では肯定意見が少ない。
- ・ 部活動への取り組みについては、教員の肯定評価が大幅に下がっている。一方の地域住民の評価は大幅に上がっている。

(6) 評価結果の分析・考察

- ・ 学習活動、進路指導、学校行事、部活動等の項目について、生徒・保護者から高い支持を得ており、学校評価アンケート全般についても生徒・保護者の満足度は高い。前年度と比較すると学校行事についての評価向上が見られる。
- ・ GE-NET20 指定校としての取り組みは、教員の評価が高い一方で、生徒・保護者・地域住民からは「わからない」という答えが多くを占めている。これからの取り組みとその広報活動を通して浸透させる必要がある。
- ・ 探究活動については、生徒・保護者ともに一定の肯定率があるが、負担感を感じている意見もある。
- ・ 授業評価アンケートの結果が反映されているとあまり思っていない状況があり、活用の仕方を今後工夫していく必要がある。また図書館利用については顕著に肯定意見が少なく、より一層の利用が求められる。
- ・ 教員の生徒に対する親身・熱心な指導に対しては高い評価を得ている一方、保護者からは、先生により授業に差があるとの意見が散見された。
- ・ 募集対策などの学校広報活動を学校 H P や Twitter をより一層活用して発信していくことが求められる。
- ・ 開かれた学校づくりについて、生徒・保護者の評価が下がる一方、教員・地域住民の評価は上がっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- ・ 今年度もアンケートでは自由意見を多くいただいた。事実ではない点も多数見受けられる（誤解なども含まれていた）。生徒・保護者・地域住民すべてにおいて情報の共有、周知が必要であると感じた。
- ・ 学校 H P や Twitter の見やすさや更新頻度などを見直し、生徒目線での情報発信など工夫する余地がある。
- ・ 探究活動については先行実施から 5 年を経て、これまでの振り返りや今後に向けての見直し・改善、新たな工夫などが必要な時期にきていると考えられる。
- ・ 地域の方々からは引き続き登下校の状況に関する意見が多い。地域の方々と共にある本校であり、一人一人がルールを守れる指導をこれからも継続する必要がある。
- ・ 教職員にはアンケートでのすべての自由意見を掲載した資料を配布し、職員会議や校内研修会の場で情報共有をして、改善に向けた取り組みを促す。
- ・ コロナ禍の 2 年間の影響が、学習・進路・生活面、生徒の意識などいろいろな所に現れ、新しい課題も出てきている。生徒の学習にかかる時間もコロナ以前より減少してきており、勉強法が身についていない生徒が増えている。コロナから脱却しつつある中で、上手に切り替えができず、すべきことはたくさんあるが、手がまわらないと思う生徒が増え、耐性の弱さが伺える。また結果が出るかわからないことに時間をかけたくないということを堂々と口にする若者の傾向が見られるなどの意見もいただいた。
- ・ I C T やオンライン授業の普及の中で、デジタル化についての意見交換もなされた。効率だけを求めるのではなく、扱い方を工夫することで生徒に深く考えさせることができるのではないかな。
- ・ 校舎の老朽化に伴う改修の要望は小中学校からも多く出ているという。校内努力ではどうにもならないが、トイレなど日々の生活に直結する部分なので何とか対策できないだろうか。
- ・ この 1 年 P T A では業務の見直しをしてきたが、過去の活動の好きさを踏襲しつつ自主的に活発な活動を進め、保護者が自発的に楽しんで交流する姿を子どもたちに見せられる P T A でありたいという意見をいただいた。学校としても協力してゆきたいと考える。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・生徒・保護者に対して、授業評価をもとにした改善について説明し、理解を得るとともに、広報活動や公開授業、成果発表会等を通して、地域の人々から関心を持たれ、理解されるように努める。

（2）学習指導

- ・探究的な学習の推進・充実と生徒の状況を踏まえて授業改善を図り、学力向上に努める。

（3）特別活動

- ・生徒の規範意識・ルール意識の向上を図るとともに、今後のコロナ後の生活を見据え、生徒による自主的運営の質の確保と向上に努める。また、国際交流への取り組みを充実させる。

（4）生活指導

- ・生徒の規範意識の向上とSNS関係の利用、自転車通学、学校近隣での登下校でのマナーの向上、盗難への危機管理意識を高め、地域から指示される学校を目指す。

（5）進路指導

- ・進学指導重点校として、最難関国公立大学への受験者・現役合格者を増やすために、第1グループ（最難関国公立大学）受験層を伸ばすとともに、第2グループ（難関国公立大学）受験層を伸ばす指導を工夫する。また学力の格差の改善を図る。

（6）健康・安全

- ・保健の授業やセーフティ教室により、健康と安全に関わる教育の充実を図るとともに、避難訓練等を工夫し、災害時に臨機応変に対応できる判断力と行動力を育てる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 10人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
7	2					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】なし 【成果】なし

8 その他

- ・保護者のアンケートの自由意見の記述が増えたものの、誤解による記述もあり、生徒・保護者・地域住民すべてにおいて情報の共有・周知を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、地域の小中学校との連携を進める等、地域との関係性を重視した取り組みを推進していく。

令和4年度 八王子東高校の教育の充実と発展を図るための提言

学校運営連絡協議会は、今年度は3回とも対面での実施が可能となり、1年間の様々な教育活動についての感想・意見を伝えた。また、学校評価アンケートの分析を行い、現状の把握と問題解決に向けての意見をまとめた。その結果を、学校長への提言として以下にまとめる。

1. 八王子東の総合的な指導体制の継続・充実

学校評価アンケートから、学習活動・学校行事・部活動をバランスよく高いレベルで取り組ませる指導は、生徒・保護者から高い評価を得ていることがわかる。また、進路実現に向けた講習・補習・個別指導も支持を得ているものの、図書館利用についての肯定的な意見が少なく、利用方法や活用方法の改善が必要である。

また、探究の取り組みについては、生徒の力を伸ばすことに役立っているとの肯定的な意見が生徒・保護者ともに多いが、グローバル社会で活躍できる生徒の育成についての生徒の肯定率は他項目に比べ減少傾向にあり、工夫・改善が必要であるとの声もあった。これらを改善し、これまでの、落ち着いて授業に取り組み、また切り替えが早く部活動や行事に専念する校風を今後も継続してほしい。

2. 進学指導重点校としての進路希望の実現とグローバル化に対応した教育活動の充実

進路指導部主導の組織的指導体制のもとで実施される難関大学のための特別講座・卒業生による進路ガイダンス・自主学習支援事業などは評価が高い。今後もその効果を検証しながら、生徒の高い進路希望を実現できるように取り組んでもらいたい。

コロナ禍の2年間の影響が、学習・進路・生活面、生徒の意識などいろいろな所に現れ、新しい課題も出てきている。生徒の学習にかかる時間もコロナ以前より減少してきており、勉強法が身につけていない生徒が増えている。コロナから脱却しつつある中で、上手に切り替えができず、すべきことはたくさんあるが、手がまわらないと思う生徒が増え、耐性の弱さが伺える。一生という長いスパンで見たときに、困難にあえてチャレンジして対処して行くことは自分を成長させる大事な機会でもあるので、高い志望を維持して頑張れる生徒を育成してほしい。

学習においては、現在取り組んでいる「探究的」な学習を軸に、グローバル化の進む今日、台湾、カナダとの国際交流活動を含め、世界にチャレンジしていく心を育む教育活動を充実させ、大学受験にとどまらない柔軟で長く維持できる学力の習得をめざしてほしい。GE-NET20 指定校としての取り組みについては名称とともに内実についての理解が十分に得られているとは言えない状況があるので、引き続き取り組みを充実させ、生徒・保護者への理解にも努めてもらいたい。

3. 広報活動を一層充実し、小・中学校や地域社会からの理解を推進する

昨年度に引き続き、コロナ禍で、密にならない会場をつくり、換気を徹底するなど感染防止対応を図りながら、管理職と総務部を中心に全教員で、学校説明会・自校作成問題説明会・個別相談会等の広報活動を開催してきた。また、昨年度から始めた小学生向け学校説明会も継続している。今後はコロナによる制限の緩和により、参加者の予約数なども増加させることが可能になると思われるので、より一層の充実を図ってもらいたい。

一方でHP等の広報活動の更なる充実が求められている。随時ホームページの刷新を図るとともに、入学希望者及びその保護者の志望校選択実態を把握して、学校の特色や教育活動を効率的・積極的に発信し、地域社会をはじめ広くその活動が知られるように努力してもらいたい。

4. 生徒の将来のリーダーとしての規範意識の育成と確立

学校評価アンケートから、今年度も登下校の自転車マナーや校内清掃の不十分さを指摘する意見が寄せられ、地域からも自転車や公共交通機関のマナー等で苦情が課題となっている。学習指導・進学指導だけに特化することなく、将来の社会を担う有為な人材を育てるという観点から、リーダーとしての規範意識・社会性・道徳性・リーダーシップの向上といった生活指導面についても組織的に取り組んでもらいたい。

5. 災害時の危機管理計画について

避難訓練や宿泊防災訓練が防災意識を高めるという意見に対する生徒・保護者からの肯定意見が多少減少している。避難訓練などの防災教育に改善の余地があり、実施方法を工夫していきながら、生徒の防災意識の向上を図っていく必要がある。

6. 校舎・施設整備について

トイレをはじめとして、自習室や教室の不足など、生徒を取り巻く施設環境の改善は急務である。学校独自の努力ではどうにもならないところまできている。改修にむけてより一層の働きかけを要望する。